

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	沖縄市こども発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月21日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園で保護者も一緒に療育に参加することで、子どもとの絆を深める機会を提供します。子どもにとっては保護者がいることで安心感が生まれ、「楽しい」を共感する機会をもつことで意欲や社会性を育みます。保護者にとっては、遊びを通して、子どもの特性や得意・苦手さを理解することで具体的な関りを学び、子ども理解を深めていくことができます。	療育活動のねらいをセンターだよりや集い会で説明し、目的をもって取り組んで。活動の中で子どもの姿に対してその場でアドバイスをしたり、具体的な知識や技術を提供するように心がけています。	療育に関する研修や親子通園事業所間での情報交換を行い、さらなる療育活動の充実を図る。
2	他の保護者との交流を通して、子育てに関する悩みの共感や理解を得られる場があり、孤独感の軽減へと繋がるようにしています。また、情報交換が行われることで、育児に関する考え方の参考や見直すきっかけにも繋がるがあります。	ペアレントタイムでは、保護者分離を図り、落ち着いた雰囲気の中で情報交換や学びの場となるように環境構成しています。集いの会で、活動の振り返りを行い保護者の気持ちを発表する場をもつことで、それぞれの思いや気づきを共有し、育児の自信へと繋がるようにしています。	保護者ニーズを確認しながら参加しやすい情報交換の場の提供を検討していく。
3	多職種の専門職が配置され相談内容や悩みに応じてアドバイスを受けることができます。(保育士・心理士・言語聴覚士・社会福祉士・理学療法士・嘱託医)	相談内容に応じて、言語相談・訓練(予約制)を取り入れたり、専門職からのアドバイスを受ける機会を設けています。	外部講師による研修会の参加や専門職による勉強会を設けるなど職員間でも知識を深めていけるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保育所等や事業所との交流する機会の確保や持ち方について。	これまで親子通園利用者は、家庭保育の世帯が多く、保育所等の交流を通して保育所等の状況を知ることができたが、現在は、ほとんどの利用者が並行通園している状況のため、交流の目的やねらいについて検討していく必要がある。	親子通園の特色を活かした地域の保育所等や事業所との交流の持ち方について検討が必要。
2			
3			